

4-1-12-2 輸血管理室

1. 概要

輸血管理室は、血液型、不規則性抗体検査や交差適合試験等の輸血関連検査、輸血に伴う日赤への血液製剤発注から病棟払い出しまでの製剤管理を行っている。

これら、輸血関連業務は24時間体制で、日勤帯は2名、夜間・休日は1名で対応している。

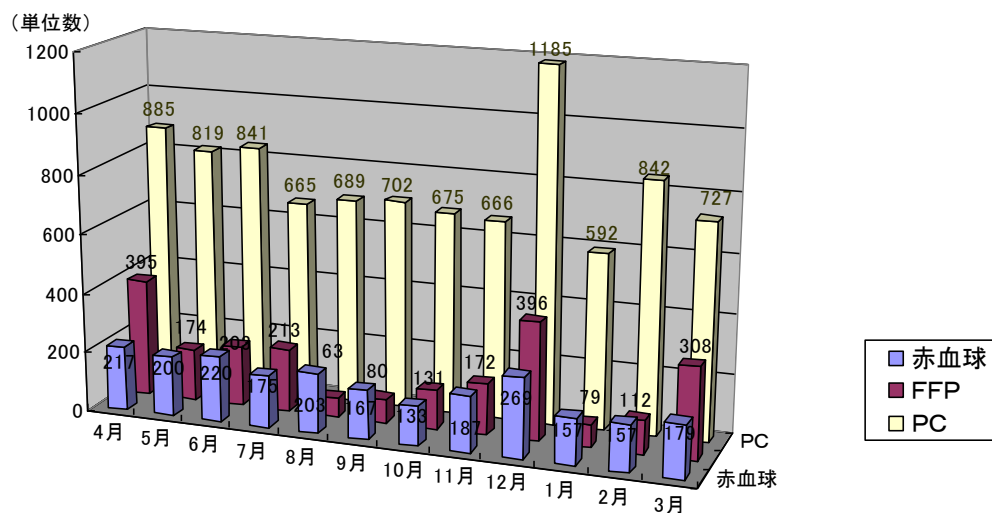
また、日赤からの遡及調査依頼対応、輸血による副作用発生時の日赤への調査依頼、臨床側への製剤情報等の伝達を行っている。

2. 輸血関連検査の稼働状況

輸血関連検査は血液型検査（ABO・RH式）、不規則性抗体検査、直接・間接抗グロブリン試験。ABO血液型不適合臓器移植時では抗A/抗B抗体価（IgM/IgG）の測定。母児間血液型不適合妊娠の場合には、母体血清中の抗体価を分娩時まで定期的に行っている。母児間ABO式血液型不適合が疑われる新生児では、成人同型血球による間接抗グロブリン試験でIgGの抗Aまたは抗Bの検出を行っている。平成19年度に実施した、これら輸血関連検査の総件数は11,440件であった。

3. 輸血用血液製剤の使用状況

輸血用血液製剤は善意の献血により成り立っており、臨床側と綿密に連絡を取り合い、製剤を無駄なく適正使用することが輸血管理室の重要な業務となっている。平成19年度の使用状況は赤血球1,947本2,264単位、新鮮凍結血漿1,028本2,326単位、血小板製剤1,012本9,288単位であった（図1）。



(図1) 平成19年度 輸血用血液製剤使用状況について